



カンボジアの子どもたちに教科書を

ニュースレター 67号

これまでの活動の成果の振り返り 第五回

代表理事 江本哲也

日韓アジア基金も皆様の温かいご支援のおかげをもちまして、発足以来、今年で17年となりました。ここで、この間の活動の成果を振り返り今後の会の発展の糧としたいと思います。今後ともご支援よろしくお願ひします。

～目	次～
活動の振り返り	1、2頁
カンボジア便り	3、4頁
自修館フェアトレード	5頁
事務局長挨拶	5頁
事務連絡	6頁

2011年6月 非正規識字学校の支援開始

カンボジアでは公立学校でもわずかながらお金がかかるので、貧しい家庭では子どもを学校に送ることができません。

この地域はルセイサン小学校・幼稚園地域と似た状況にあります。多くが他の場所から移ってきた貧しい家庭です。

子どもたちは家計を助けるために、ゴミ処理場でゴミをあさったり、釣りをしたりしているのが現状です。

そんな中で、親たちから子どもをせめて文字が読めるようにしてやりたいという声があがり、ある学校の校長が民家の一部を借りてボランティアで識字教育を始めました。5歳から12歳の子ども約30人を二つに分け、二クラスを同時に校長自身が教えています。写真にある机などの備品も校長が用意したもので日韓のカンボジアの代表であるリテイさんとの話し合いの中で、校長はこのような状況を大きく改善したいと考え、正式に当会に支援の依頼をしてきました。



校長先生が教えている授業



その内容は、

先生2名の給与（一人45ドルで合計90ドル）、教室として使用している民家に支払う家賃（現在月額20ドルで、一定期間経過後30ドル）および敷金（60ドル）、教科書計100冊（約100ドル）、中古の机15個（計150ドル）、黒板2個（計30ドル）などです。それらを合計すると、当初教室の立ち上げに掛かる費用は340ドルとなります。

家賃・給与など今後毎月必要となる経費は、120ドルですが、その他の備品などで小額の追加支援は必要になると考えています。

家賃や先生の給与といった経費に関しては、カンボジアでの一般的な事例を参考とし、家主・先生との交渉を経て決定しました。

当会がNPOとして教育支援をしていることを考慮してもらい、一般的な事例よりは低い金額になっています。

現在確認できている範囲では、子どもの数は60名ほどで、当会の支援で

学校が軌道に乗ってくれば、さらに増える可能性もあります。引き続き、この識字学校への支援をおこない、ニュースレターでご報告していきたいと思えます。

2019年の現在もこの識字学校は順調に行われています。



授業の様子



教室は民家の一部の間借りです



カンボジア便り

～最近のNFEC（識字学校）の状況～

丸山芳彦

今回は、現地職員のリティさんにお願ひし、NFECの卒業生にインタビューしてもらいました。ここで紹介するのは、とても優秀な姉妹で、2人とも中学生です。

お姉さんは、ナレンさん（Nhuornh Naren）で15才です。今、Tuol Ampil中学の9年生（中3）です。クラス48人中、1番の成績です。彼女は学校に行く前に家事を手伝っています。また、学校が終わると夕方には英語の教室に通っています。

妹はナオンさん（Nhuornh Naong）13才です。お姉さんと同じ中学校の7年生（中1）です。クラス53人中だいたい1番ですが、前回は何度か病気だったので、2番でした。彼女も夕方は英語の教室に通っています。



姉妹のお父さんは、39才で建築現場で働いています。お母さんは主婦、姉妹にはもう1人妹がいます。

クラスで1番に挑戦するにはどのように勉強するのかを訊ねたところ、2人は、『学校では授業中、先生の話に注意深く耳をかたむけています。家に帰ると、家事を手伝わねばなりません、できるだけ早く片付けてしまいます。』と語っています。また、姉妹の家は、NFECに近いので、勉強でわからない事があると、NFECのYan Sokhorn先生（NFEC創設者の1人、公立小学校の校長先生でもあり



ます)に教えてもらいに行きます。

姉妹が成績1番に挑戦できているのは、Sokhorn先生のお力も大きいようです。

現在、NFECにはYan先生と、Phal Sambath先生の2人がいます。Sambath先生については、ニュースレター64号でお伝えしたように、8人の子供の

お母さんで、夫亡き後、子供全員を立派に育てていらっしゃいます。

(娘さんの1人は医大生、下の2人はまだ中学生です)

■NFECの現状

- ・Class 1 (小1～小4) にいつも通っている子供は、30人から40人です。
- ・Class 2 (小5、小6) にいつも通っている子供は、18人から20人です。

リティさんは、時々父兄にNFECに対する意見を聞いています。父兄たちは皆、NFECは子供達にとっても役にたっていると言っています。以前は、いろいろな理由で公立学校にいけない子供のためという意味合いが強かったのですが、最近は公立小学校で授業に追いついていけない子供が補習の目的で通ってくるケースが多いようです。



我々は、次年度(新学期は11月)も、NFECの何人かの卒業生が中学校に進むことを期待しています。

自修館中等教育学校でフェアトレード販売会実施

～日韓アジア基金の広宣活動も行っていました～ 齊藤乃章

今年から当会とのコラボをして下っている神奈川県伊勢原市の自修館中等教育学校において、去る3月26日（火）フェアトレード販売会を開催、その際

に当会の広宣活動もして頂きました。写真はその模様です。また寄付金も頂けることになりました。



自修館中等教育学校の伊藤先生をはじめ生徒の皆さん、ありがとうございました。この場を借りて感謝申し上げます。

ご挨拶

事務局長 長内麻誉

皆さまには平素より当会の活動をご支援いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、このたび3月の総会を持ちまして、当会の事務局長に就任することに相成りました。私にとっては身に余る重責ではございますが、支援者の皆さまのお力をお借りしながら精一杯の努力をして参る所存でございます。

これから、韓国事務局の再建や自修館とのコラボレーションが本格化します。カンボジアでの活動も、これまで以上に活発にしていき、日韓アジア基金を更に盛り上げて参りますので、今後ともどうぞ変わらぬご支援を、よろしく願いいたします。



当会イベントにボランティアスタッフとして参加下さった方（敬称略・順不同）

■ 2019年1月 ニュースレター66号発送作業

自修館中等教育学校の生徒の皆さんと伊藤先生、
当会スタッフ（長内麻誉、チョグゾルマーウタバル、丸山芳彦、斉藤乃章）

2019年1月4日～2019年3月7日に会費・ご寄付を下さった方（敬称略・順不同）

(有)信和ハウス	鋤柄慎吾	高柳直正	丹下誠司	第25回チタラ会
川越キリスト協会	藤井幸子	満井啓二	藤原克子	木村由美
丸山芳彦	木下マズミ	平塚千寿	松本昌幸	佐藤和之
鯉沼利夫	川崎由紀子	堀内和子	田中清隆	西川真衣子
福本正勝	吉崎玲子	井上卓也	江本哲也	千葉まゆみ
高橋周孝	長内麻誉			

今後のイベント開催、参加計画（全てボランティア募集あり・実施時期等は未定）

6月 ビビンの会、

7月 ニュースレター68号発行、

9月 グローバルフェスタ参加

10月 ニュースレター69号発行、アジア文化会館秋祭り参加

◆ ご入金・ご寄付のお願い

活動会員：年会費 5,000 円（学生・未成年 2,000 円）

賛助会員：年会費 5,000 円（学生・未成年 2,000 円）

法人会員：年会費 100,000 円

ご寄付： 2,000 円以上 おいくらでも

郵便振替口座

支店名 ○一九(セロイキョウ)店

口座番号 当座 00180-2-25153

口座名義 日韓アジア基金

(カタカナ表記 ニツカンアジアキョウ)

活動会員：活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権がございます。

賛助会員：定期的にご支援頂ける方。

ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

＜お問合せ先＞（日本語でお願いします）

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(A B K)内

Tel: 090-5812-1471(庶務・会計担当 斉藤) FAX: 03-3946-7599 (A B K)

E-メール: nikka17@iloveasia2.sakura.ne.jp HP: <http://www.iloveasiafund.com>

発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也